

ユーラシアン・ホット・ライン

Eurasian Club News Letter Vol. 23

2001年 2月

ヘッド・ライン

(トピック)

- 3月17日に「下町ユーラシア文化ルネッサンス」プレ・フェスティバルを開催
- 3月10日に「21世紀のシルクロード・ユーラシアンハイウェイ～交流と安定、中央アジアユニオンの模索～」を開催

(催し物案内)

■ウズベキスタン親睦旅行の参加者を募集中

(クラブニュース)

- 1月24日に江東区との話し合い
- 「ユーラシア文化 江東区から発信」
- 「キルギス文化フォーラム」のご報告
- 2団体に助成金を申請
- モンゴル子供発展センター支援に向けて

(クラブ短信)

- クラブ顧問田中哲二氏がキルギスに関する著書を発表
- イジフさん、カナダへ
- バラムイギンさんが帰国
- キルギスのお二人が帰国
- サポート会員・ボランティア会員を募集中

(企画記事)

- <連載>「ユーラシア文化ルネッサンス」の近況 第1回 大野遼
- ユーラシア人物往来 第1回 ザヒドフ・シェルゾトさん

■3月17日に「下町ユーラシア文化ルネッサンス」プレ・フェスティバルを開催

「下町ユーラシア文化ルネッサンス」プレ・フェスティバル
 ～獅子幻想 暮らしに潜むシルクロード発見～
 ～躍動! どこかで聴いたメロディとの出遭い～

日時: 3月17日(土) 午後2時～4時(開場午後1時半)
 場所: 江東区・深川江戸資料館小劇場(都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅下車徒歩3分) 料金:
 前売(S席: 3000円 A席: 2500円)
 当日(S席: 3300円 A席: 2800円)
 主催: ユーラシアンクラブ
 協力: 江東区文化センター・江東区地域振興会

出演予定者:
 (ウイグル) ラワーブ奏者ママト・ウメル氏、ドタール奏者アルキン・マンズリ氏、トルファン歌舞団、ほか留学生10名ほど
 (モンゴル) 歌手オットホンバイラ氏、馬頭琴奏者プヘナスン氏、琵琶奏者ソヤラさん、ほか舞踏家(江東区)獅子舞、お囃子、三味線、民謡、チャンゴグループ「ノリマダン」の各グループ
 口琴・ホーミー奏者直川礼緒氏、アイヌの弦楽器トンコリ奏者、カルムイキアのドンブラ奏者バドマ・アルルタノフ氏 ほか
 「江東区ユーラシア文化ルネッサンス事業」のプレ企画として、3月17日(土)に江東区・深川江戸資料館小劇場において民族芸能フェスティバルを開催します。西はカスピ海の西岸カルムイキアからシルクロード、朝鮮半島を経て東の江戸下町に至る各地の民族芸能を繰り上げます。それぞれの芸能には共通点があり、親しみ深いものであるということを発見していただきたく思います。日本や中国では獅子舞で親しまれ、遠くエジプトにまでその文化的源流をたどることのできる獅子が案内役をつとめます。

東京芸術大学研究員で昨年はNHKのハイビジョンウィークエンドシアターにも出演したママト・ウメル氏、シルクロードの要衝トルファンの歌舞団でナンバーワン舞姫として名を馳せるサラメット・ステックさん、「姫神」のボーカリストとしても活躍するオットホンバイラ氏らユーラシア各地の著名なアーティストたちが、地元江東区にて伝統芸能を受け継ぐ各グループと競演します。

皆さまお誘い合わせの上ご参加ください。

■3月10日に「21世紀のシルクロード・ユーラシアンハイウェイ～交流と安定、中央アジアユニオンの模索～」を開催

クラブでは今後、フォーラムのシリーズ「多民族・多文化社会の行方」を継続して行う予定でありますが、その第1回として「21世紀のシルクロード・ユーラシアンハイウェイ～交流と安定、中央アジアユニオンの模索～」を3月に開催します。講師には、ウズベキスタンからの国費留学生でこの春に早稲田大学大学院アジア・太平洋研究科を修了するザヒドフ・シェルゾト氏とクラブ代表の大野遼氏を予定しています。

シェルゾト氏は、これまで大学院にて研究してきたテーマである、将来中央アジア各国を結ぶ予定の道路・鉄道の見通しとそれに関連する中央アジアの統合過程についてお話しします。さらに大野遼氏は、今後の多民族・多文化社会の実現に向けての話題を、現在ユーラシア各地で頻発する種々の紛争を踏まえてお話しします。

日時: 3月10日 午後6時～8時
 場所: 勤労福祉会館(JR山手線渋谷駅下車公園通り沿い)
 会費: 500円
 住所) 渋谷区神南1-19-8
 電話) 03-3462-2511

(催し物案内)

■ウズベキスタン親睦旅行の参加者を募集中

「加藤九祚先生を訪ねるユーラシアンクラブ親睦旅行～ウズベキスタンの遺跡巡りと発掘体験ツアー～」

クラブでは、今年ゴールデンウィークにウズベキスタンへの親睦旅行を計画しています。クラブ名誉会長であり今年5月18日に80歳の誕生日を迎えられる加藤九祚先生が発掘されているテルメズを訪問し、参加者も発掘体験が味わえます。現場は軍事施設内にあるため一般人は立ち入ることのできない場所ですが、今回は加藤先生の特別のお計らいで許可がおりました。そのほかウズベキスタン各地の名所旧跡を訪ねます。さらに今回は、4月28日(土)に開設されるウズベキスタン国営航空の関西国際空港・タシケント間定期直行便の第1便に搭乗しての旅立ちとなります。現在のところ、以下のとおり予定しております。ご希望の方はクラブ事務局までお問い合わせ下さい。

期間：4月28日～5月5日

コース：関西空港→(飛行機)→タシケント→(飛行機)→テルメズ→(貸し切りバス)→サマルカンド→(貸し切りバス)→ブハラ→(飛行機)→タシケント→(飛行機)→関西空港

募集人員：10名(最小催行人員×名)

旅行代金：28万円(予定)

企画：ユーラシアンクラブ

主催：トラベル世界

「カラテパの1998年発掘直後の大ストゥープと小ストゥープ」



(クラブニュース)

■1月24日に江東区との話し合い

去る1月24日にクラブ代表大野は、江東区地域振興会の関係者との間で今後の「江東区ユーラシア文化ルネッサンス事業」の進め方について話し合いを持ちました。

振興会の側からは、副理事長である宇田川市郎氏、管理課長である加津間節雄氏、東大島文化センター所長である永尾文二氏が出席されました。大野代表の事業についての趣旨説明に対して、管理課長の加津間氏からは「細く長くやりましょう」と好意的なお返事をいただき、さらに「展示と催しを合わせてやったらどうか」というご提案を受けました。引き続き行われたイベント部会話し合いには、上記永尾氏のほか江東区文化センターの佐川氏、ティアラ江東の森氏、亀戸カメラプラザの矢吹氏が出席されました。この場で先の加津間氏からのご提案に応えるかたちで、ユーラシアの民族文化を伝える写真展を区内各所で巡回開催し、合わせて会場でミニ・ライブを開くという案が浮上りました。

また今後の区内各地区の催しについては、亀戸ではライブやフェスティバルなどの親睦促進的な催しを中心とし、東陽町の文化センターでは企画コンサートやフォーラムなどの理解促進的な催しを中心として、差別化をはかっていくことが話し合われました。

具体的には、亀戸・地元商店街“サンストリート”での野外ライブ、学校・商店街・亀戸天神などと協力してのワークショップ、中心施設であるカメラプラザにおいてはリハーサル室を利用した各種ワークショップの開催、ホールを利用しての映画祭・舞踏大会などの開催、文化センター・シリーズもののユーラシア文化フォーラムの開催、などが実現可能なのではないかと現在検討中です。それら個々の活動を有機的に結びつけ、来年3月に催すティアラ江東での芸能祭につなげていこうと考えています。



「ユーラシアンクラブでモンゴルの馬頭琴と琵琶を演奏する演奏家」

■「ユーラシア文化 江東区から発信」

江東区との協力による事業展開が本格化するなか、「江東区ユーラシア文化ルネッサンス事業」の紹介記事が産経新聞に掲載されました。以下に転載いたします。

ユーラシア文化 江東区から発信

—遠い国なのにどこか懐かしい・・・—

—音楽など留学生と住民、イベントで協働—

かつてシルクロードを通じて結ばれた日本を含むユーラシア諸民族が、この春から下町を舞台にイベントプロデューサーに乗り出す。都内に住むユーラシア大陸少数民族の留学生と支援者らで構成するNPO・ユーラシアンクラブが、江東区地域振興会と協力して企画。キルギス、ウイグルなど、文化的に日本と深い関係をもつ少数民族の音楽や芸術、文化イベントを区内の十二施設で公開する。少数民族留学生らが地域住民と協力しあって文化発信する例は全国的に珍しい。(福島香織)

「キルギスというと、一昨年の日本人拉致(らち)事件など怖いイメージがあるでしょう。でも、キルギス人には親日家が多いんですよ」とクラブ事務局長の大野遼さん(五二)。

古来、汗血馬の産地でシルクロードを通じて日本とも交流のあったキルギスの本来の姿を知る日本人は少ない。都内にはモンゴル、ウイグル、ウズベク、サハ、アゼルバイジャン、カルムイク、アイヌなどユーラシア大陸の少数民族の若者が五百人以上暮らしている。多くの日本人はこれら民族の文化についてもほとんど知らない。

「しかし、モンゴルの馬頭琴を聞けば、その旋律が日本民謡と良く似ていることを発見し、ウイグルの弦楽器ラウツプには日本的な郷愁を感じるはず」と大野さんは話す。

日本も同じ文化的源流をもつユーラシアの家族であることを知ってほしいと考え、クラブのメンバーが通年企画書を練り上げたという。メンバーの中にはモンゴルの馬頭琴演奏家、アスゲンさんらプロの演奏家や歌手、舞踊家も数多くおり、イベント内容には事欠かない。

この企画に、地域活性化の新しい方を模索していた財団法人江東区地域振興会が目をとめた。

「江東区は小唄や太鼓など地域に根づいた伝統芸能を持つが、なかなか若い人たちに広まらない。でも、この企画の中に組み込めばその良さが再発見できるのでは」と振興会側の窓口の永尾文二・東大島文化センター所長。三月から本格的始動を予定しており、ユーラシア文化と下町の伝統芸能の融合も見られそうだ。

折しも平成十四年度から小・中学校の音楽教育に日本の伝統音楽、諸外国の民族音楽学習が必修となる。「来年には江東区から全国に向けてユーラシアの音楽文化を発信して、子供たちの音楽教育にも役立ててほしい」と、長尾所長は期待を膨らませている。

(産経新聞 1月21日)

■「キルギス文化フォーラム」のご報告

去る1月14日(土)にユーラシアンクラブ主催、江東区文化センター・江東区地域振興会協力により開催された「キルギス文化フォーラム」は、50名以上の参加者があり盛況のうちに幕を閉じました。講師のヴィターリ氏と通訳の佐々木伸一郎氏は息の合ったところを見せ、アイーダさんは魅力的な歌声と踊りを披露してくれました。また、友情出演のママット・ウメル氏や飛び入りのソヤラさんの演奏によってユーラシアの広がりを感じられるものとなりました。さらに引き続いて開かれた交流会にも多くの方が参加され、キルギスやユーラシアへの思いを語り合い親睦の輪が広がりました。

今回は、キルギスに関係あるいは関心を持つクラブの若いスタッフが中心となって準備を進め企画のノウハウを身に付けるとともに、江東区の関係の方々に対してもクラブのプレ企画としてかたちあるものを提示することができ、今後の江東区における継続的な事業展開に向けて、意味のある催しになったと考えています。

「講演の様子。左からアイーダさん、ヴィターリさん。」



■2団体に助成金を申請

クラブは先月以下の二つの事業について、それぞれ助成金の申請を行いました。

1. 住民主体の民族文化産業再生拠点「ウデゲ・コミュニティセンター」創設事業

申請先：財団法人国際開発支援財団

趣旨目的：

ロシア沿海州の少数民族住民ウデゲを主体とするクラスニーヤル村において、村の外れに建設途中で放置された狩猟小屋を完成させ、村の熟練した猟師、伝統文化の継承者である老人、芸術家が、若い猟師や放課後の児童を集め、民族存続の基盤となった原生林の知識、暮らしの知恵や言語文化を伝授し、極小先住民の死活の課題となった生き残り戦略と技術、産業文化再生の方向について、住民主体の意識向上運動として言語文化教育と産業開発研究を実施する。この事業によって、志のある村の住民を中心として老人、青年、児童が、「自助努力」「自立」といった意味を体言する人材の育成につながると思われる。

2. 極小先住民族村のコミュニティキャンプ整備補修事業

申請先：財団法人地球市民財団

趣旨目的：

ロシア沿海州・シカチアリヤン村は、人口350人ほどのナナイ人の極小先住民族村である。アムール川沿いに分散居住し、これまで主として漁業に依存してきた。しかし河川の汚濁、漁獲高の激減を直接の原因として、村の産業基盤は崩壊し、男性、女性とも村の生活基盤が揺らぎ、自立のための条件開拓に努力が注がれている。シカチアリヤンは、こうした分散居住する先住民族村の中で最も大都市(ハバロフスク市)に近い(同市から70キロ)先住民族村ということで、ユーラシアンクラブでは10年ほど毎年、ボランティアスタッフが村を訪ね、村の小学校に毎年文房具や遊具、楽器等を届けたり、日本から中古ミシン60台、布地はぎれを搬送し、民族文様を縫いこんだ小物製作のための作業所づくりに協力してきた。今年年末年始を利用して同村を訪問、村長や漁業組合会社のリーダー、一と相談した結果、村はずれに放置された空家建物群の補修を行い、暮らしの知恵や伝統文化の伝授、産業文化の再生、振興や自立のための活動拠点として「シカチアリヤンコミュニティキャンプ」を整備し、従来からの無職女性のための授産縫製作業所のほか、言語文化継承のた

めの児童館、民族工芸技術研修所、産業開発施設として使用することになった。補修については、技術者以外にも村民が協力する。この事業によって、村長、志のある村の漁師、教師、芸術家、老人が集い、放課後の児童70人とともに、村の再生や自立、自助努力の活動、人材育成が進展することが期待される。

■モンゴル子供発展センター支援に向けて

前号にて、クラブはモンゴルへの学校寄贈という協力支援プログラムを実行委員会方式で立ち上げ、すでにご自身で「モンゴルへ学校を贈る会」を発足させたクラブ会員の杉山氏の活動と相互に協力しながら、カンパの募集や助成金の申請などさらに幅広く取り組んでいく旨のご報告をしました。

クラブ代表大野は、長年「子供発展センター」との交流を続けてきた「多文化共生財団」の川岡さんと先日話し合い、その際「今後支援を継続して行くためにはどのような方法をとるべきか」「そのためのデータの提供をしていただきたい」という趣旨のおうかがいをして、現在その返事を待っているところです。

クラブでは今後、上記川岡さん、杉山氏、さらにやはり長年「子供発展センター」との交流を続けてきた「モンゴル・レター」編集長の栗原氏、大野を中心メンバーに実行委員会を立ち上げて、話し合いを進めていく予定です。

(クラブ短信)

■クラブ顧問田中哲二氏がキルギスに関する著書を出版

クラブ顧問である田中哲二氏が、今年1月にキルギスに関する著書を出版されました。日本銀行に勤務しておられた田中氏は、IMFからキルギス中央銀行最高顧問として派遣され、後には大統領特別顧問にも就任され、93年から95年までの激動期にキルギス共和国に滞在し、同国の発展のために尽力されました。本書では、ご自身のその当時の体験や現在に至るまでの中央アジア各国との関わりについて述べられています。経済政策の陣頭指揮を執られた氏ご自身による貴重な証言であり、信頼関係で結ばれたアカエフ大統領の推薦のことばが冒頭を飾っています。

「キルギス大統領顧問日記 シルクロードの親日国で」

田中哲二 著 (中公新書) 780円

■イジンフさん、カナダへ

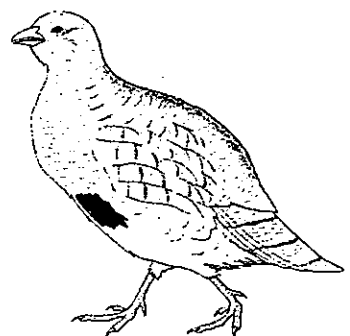
内モンゴルからの留学生で、クラブの催しにも積極的に参加されたイジンフさんが、次なる留学先であるカナダのバンクーバーに1月21日に旅立ちました。当地のドーセント・カレッジに2年間留学して環境保護と英語を勉強する予定だそうです。クラブ会員の井口さんによるイジンフ評は「鉛筆のような人」。「シンが強く周りにキを遣っている」からとのこと。本当によく気配りをしながら労を惜しまずいろいろと体を動かしてくれました。向こうに行ってもお元気で!

なおイジンフさんから難日直前に、昨年暮れに開催された「アイヌとアメリカ先住民の交流会」についての報告文が送られてきました。前号の記事にもなっていますが、ここであらためてご紹介します。

2000年12月16日に、山梨県大月市にいる東京アイヌ協会別荘で、広島平和行動で来日のアメリカインディアン人とアイヌ人交流会が開催されました。その際、インディアン人とアイヌ人が各自の伝統な儀式を行われました。両方とも血縁はつながりを感じました。インディアン人とアイヌ人は共通点が多いと想いました。また、アイヌ人の伝統な楽器でアイヌの音楽を演奏されました。

ユーラシアクラブ代表大野遼ら3人がこの交流会に参加しました。

(イジンフ)



■バラムイギンさんが帰国

クラブ協力者であるニコライ・バラムイギンさん(元サハ共和国在日代表部首席・現ハンガラス州第一副知事)は、長女アイタちゃんの病気治療のために来日されていましたが、アイタちゃんが年明けの2日に無事退院したため1月15日に帰国されました。帰国直前の14日には、江東区で開催されたクラブ主催の「キルギス文化フォーラム」にも顔を出していただきましたが、ほっと胸をなで下ろしたご様子でした。なお、奥さんのチャラさんとアイタちゃんは静養のためまだしばらく滞在するとのことでした。

■キルギスのお二人が帰国

「キルギス文化フォーラム」で講師として活躍され、そのほかに若林教授の推薦で文教大学のセミナーでも講師を務めたアイダ・モロドガジエヴァさんとヴィターリ・キヴァチンスキーさんのお二人が、短期留学の日程を終え1月29日にモスクワ経由でキルギスタンに帰国されました。お二人とも、日本にはキルギスの文化を紹介する恒常的な施設がないことを残念に思いつつも、こうして母国の事情を紹介する機会を持てたことについて非常に喜んでおられました。またヴィターリさんは、勤務先の日本文化センターで帰国後ますますキルギスと日本の交流のために献身したいと抱負を語っていました。

■サポート会員・ボランティア会員を募集中

NPO 法人化に伴い、クラブの会員規定も変更になりました。年会費1万2千円によって経済的に支えていただくサポート会員と、スタッフとしての活動でクラブを盛り立ていただくボランティア会員を随時募集中です。お話し合わせの上ぜひご入会ください。<登録用紙はHPに掲載>

(企画記事)

<題詞> “ユーラシア文化ルネッサンス”の近況

第1回

大野遼

先日、内モンゴルの友人でオルティンドオの歌手、オットホンバイさんの家を訪ねた。姫神のボーカルとして活躍中の彼のことを知る人もいだろう。羊一頭を載せて馳走していただいた。甘く柔らかな肉。塩味のスープが満足感、幸福感で満たしてくれた。1歳5ヶ月のお嬢さんハイリハン(蜂の意味)ちゃんを中心に暖かい家族。物価高の日本でアルバイトをしながらの大学生活、そして保育園に子供を預けながらの毎日。「家に帰ると何もなくても嬢がいるだけでいい」。生きる力の漲る家庭でした。

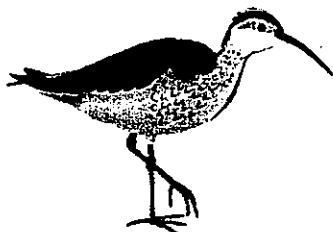
今回のご招待は、旧正月のごあいさつといった意味もあつたであろうが、私がこの数年話してきた「ユーラシア文化ルネッサンス」への彼らなりの賛同のメッセージがあつたのだと受け止めることができた。

一緒に訪ねた演奏家の友人が一本のカセットテープを聴かしてくれた。伝説の演奏家セーラシ氏のチョロ(意味は共鳴)という二弦楽器だった。

60年代までこの人の右に出るものはないという馬頭琴の名手であつたセーラシは、馬頭琴の原型といわれる民衆の楽器チョロの名手でもあつた。戦中、来日し昭和天皇の前で馬頭琴演奏を聞かせ、「表現できない幻の音」と感心させた。これが戦後大分経ってから禍いの原因になり、文化大革命では「日本のスパイ」と槍玉に挙げられた。しかしセーラシは今でも馬頭琴の最高峰として語り継がれているという。

演奏家の友人は、このセーラシ記念第10回コンクールで銀賞を獲得した。馬頭琴も日本の浪曲に似た「チョルドウ」という歌を伴うチョルの弾き語り文化も継承し、普及に心を砕いている。友人の名は、ブヘナサンである。

内モンゴルのこの二人のアーティストは、日本の民謡が大好きである。今年は彼らと一緒に汗を流すことになりそうだ。セーラシの名とともに記憶に留めて頂ければ幸いである。(続く)



ユーラシア人物伝説

第1回 ザヒドフ・シェルソトさん(ウズベキスタン)

～広い視野で中央アジアの未来を思い描く～

自分の意見をしっかりと持ち、穏やかな表情の中にも芯の強さが垣間見える。

70年生まれの30才で根っからのタシケントっ子。地元の世界経済外交大学を卒業後に国費留学生として早稲田大学大学院に入学し一貫して国際関係論を研究する一方、幼少の頃より絵画を好み美術専門学校卒業という経歴も持つ多才なひと。今年3月には修士課程を修了して帰国し、政府機関で働く予定だ。

「今まで日本で勉強してきたことをウズベキスタンの人達に伝えたい。」それは自分の専門のことだけではなく、日本の日常の暮らしや文化についてもとのこと。来日の第一印象について、「皆がイエス・ノーをはっきり言わないことにとまどいました。向こうでは率直にものを言いますから。でも今ではもう人の目を見て心を読むことに慣れました。」とシェルソトさん。

98年の独立記念日に大使館で催されたパーティでユーラシアンクラブ代表大野氏と知り合ってから、継続的にクラブに協力してくれた。「これからも留学生が大勢来られるように、日本側からのサポートをお願いしたい。」とクラブへの期待を述べるとともに、「特にこれ

携わるエキス務だ。」との本の人達にのこをが、現在の状まずもって歴とが大切だとソ連崩壊後政学が研究在模索されてユニオンの続く道路や鉄道



からは技術導入にパートの養成が急見解を示す。日もっとウズベキスタ知ってもらいたい況を知るためには史について学ぶこ語る。

の中央アジアの地テーマで、特に現いる中央アジア・合過程や地域を貫などのインフラ整備

備について実証的な考察を進めている。そのことについて語る際「ウズベキスタンのことだけではなく周辺地域まで含めて」ということを再三強調した。またかつて自分の所属するアジア太平洋研究科の発行する雑誌に、「今後の国際関係では個人の重要性がますます高まっていくだろう。将来、人的ネットワークを構築していくことに貢献したい。」旨のエッセイを寄稿した。広い視野に立ちながら人と人の結びつきを大切にしていこうという姿勢がうかがえる。

昨年秋に地元で一目惚れしたナルギザさん(21才)と結ばれた。彼女を日本に呼び寄せ、現在東京で幸せな新婚生活を送っている。

将来、中央アジアと日本の架け橋として活躍されることを期待したい。(井出晃憲)

○編集後記

とぎれがちだったニュースレターもこの3カ月は定期的に発刊できました。これからも月刊を維持していきたい所存です。今号からは連載の企画記事も始まり紙面も充実しつつあります。今後にご期待下さい。(い)

発行：NPO法人ユーラシアンクラブ
発行人：大野遼 編集人：井出晃憲
2001年2月1日発行
住所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-13-2
第1 広田ビル
電話 / ファックス：03-5371-5548
E-mail：PAF02266@nifty.com
Homepages：http://homepagel.nifty.com/EURASIANCLUB/
印刷：テレサ株式会社 出版部
住所：〒142-0063 品川区荏原7-20-11
電話：3786-9725 / ファックス：5746-2441
E-mail：info@teresa.co.jp
Homepages：http://www.teresa.co.jp http://www.teresa-net.com